



## 交付運用報告書

# 損保ジャパン日本株オープン（DC年金）

## <愛称> むぎわら帽子（DC年金）

追加型投信／国内／株式

作成対象期間：2022年11月1日～2023年10月31日

第22期 決算日：2023年10月31日

## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、日本の株式を実質的な主要投資対象とし、ベンチマークである東証株価指数（TOPIX）を中長期的に上回る運用成果を目指します。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。

第22期末 2023.10.31

基準価額 26,723円

純資産総額 948百万円

騰落率※ 25.8%

期中分配金合計 0円

※ 騰落率は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書（全体版）は下記の方法で閲覧いただけます。

なお、ご請求いただいた場合には交付いたしますので、販売会社までお問い合わせください。

### ▶ 運用報告書（全体版）の閲覧方法



<https://www.sompo-am.co.jp/>  
にアクセス

「ファンド検索」等から当ファンドのページを表示して、閲覧またはダウンロードすることができます。



## SOMPOアセットマネジメント

東京都中央区日本橋二丁目2番16号 共立日本橋ビル  
お問い合わせ先：リテール営業部

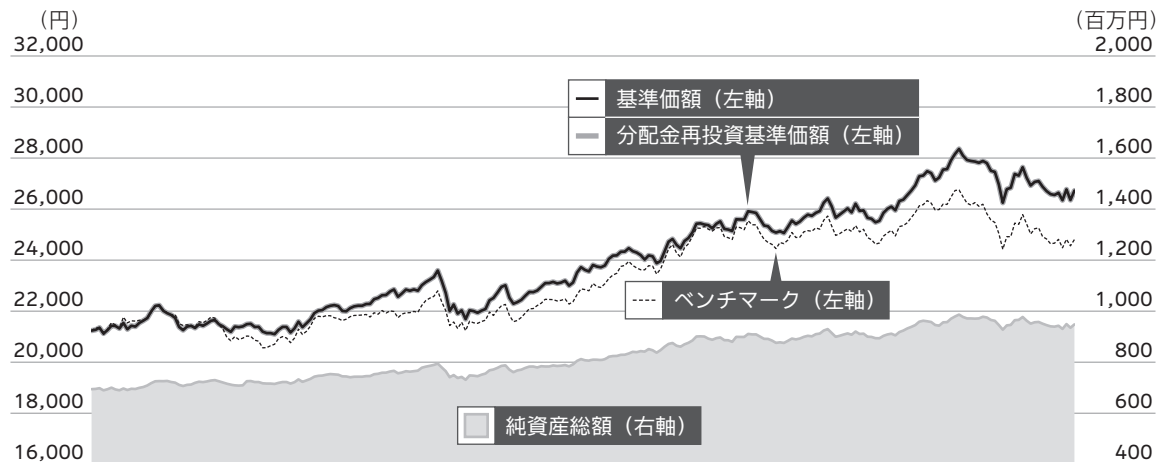
（受付時間 営業日の午前9時～午後5時）



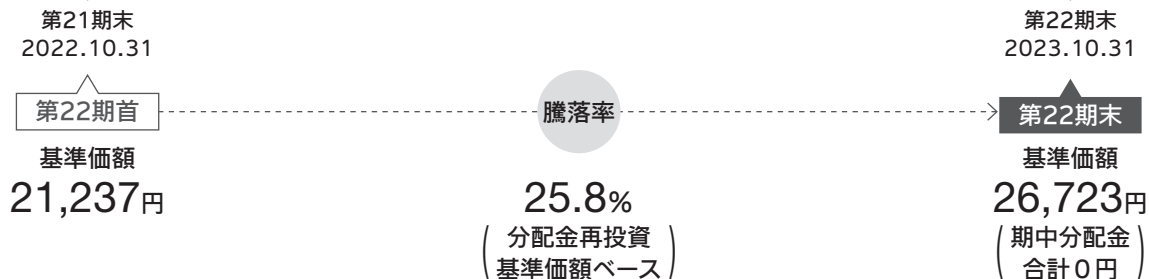
0120-69-5432

# 運用経過

## ● 基準価額の推移



基準価額の推移



- 分配金再投資基準価額およびベンチマーク（TOPIX（東証株価指数））の推移は、2022年10月31日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

## ● 基準価額の主な変動要因

### 損保ジャパン日本株オープン（DC年金）

高位に組入れていたマザーファンドの基準価額が上昇したため、当ファンドの基準価額も上昇しました。

### 損保ジャパン日本株マザーファンド

期中の騰落率は+28.2%となりました。

個別銘柄では、三菱UFJフィナンシャル・グループ、三井住友フィナンシャルグループ、トヨタ自動車、本田技研工業、パナソニックホールディングス、鹿島建設などの保有がプラス要因になりました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。

 ベビーファンド    マザーファンド

## ● 1万口当たりの費用明細

項目	第22期 2022.11.1～2023.10.31		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	393円	1.650%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は23,807円です。
(投信会社)	(131)	(0.550)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(236)	(0.990)	購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(26)	(0.110)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	17	0.073	(b) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(17)	(0.073)	
(c) その他費用	4	0.017	(c) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(監査費用)	(4)	(0.015)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.002)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
<b>合計</b>	<b>414</b>	<b>1.740</b>	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

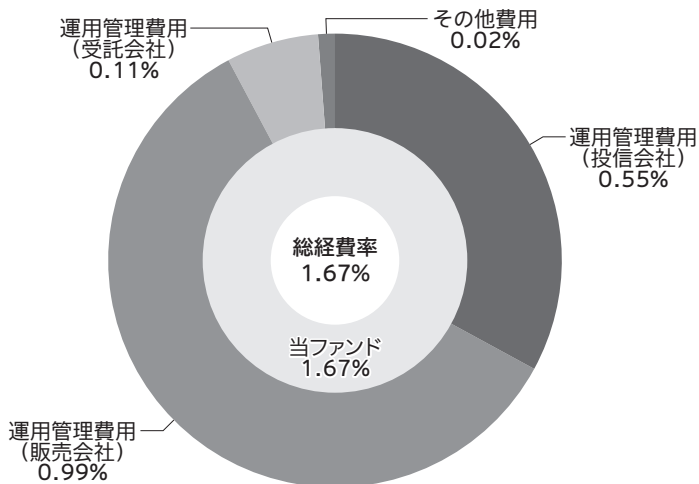
注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## (参考情報)

### ○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.67%**です。



注1. 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

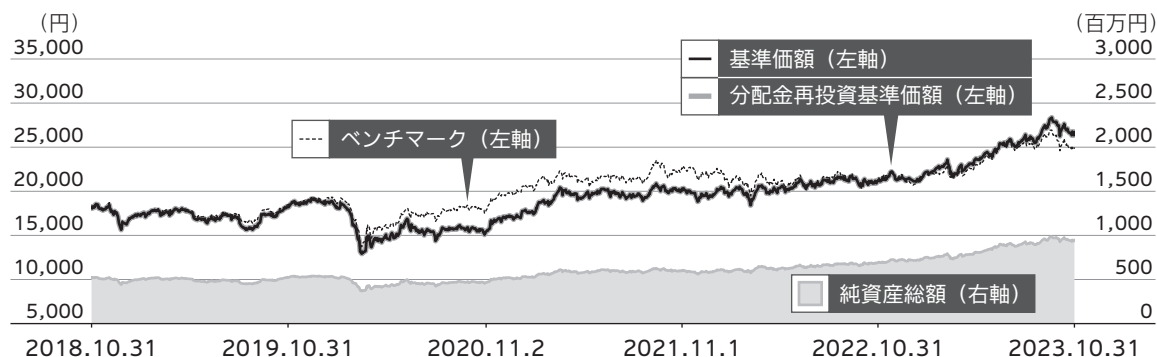
注2. 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

注3. 各比率は、年率換算した値です。

注4. 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

注5. 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ● 最近5年間の基準価額等の推移 2018.10.31～2023.10.31



- 分配金再投資基準価額およびベンチマーク（TOPIX（東証株価指数））の推移は、2018年10月31日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

決算日	2018.10.31 決算日	2019.10.31 決算日	2020.11.2 決算日	2021.11.1 決算日	2022.10.31 決算日	2023.10.31 決算日
基準価額 (円)	18,248	18,228	15,430	20,300	21,237	26,723
期中分配金合計（税引前）(円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資 基準価額騰落率 (%)	—	△ 0.1	△ 15.4	31.6	4.6	25.8
ベンチマーク騰落率 (%)	—	1.3	△ 3.5	27.2	△ 5.6	16.8
純資産総額 (百万円)	521	523	466	604	694	948

- ベンチマークは、TOPIX（東証株価指数）です。

指数に関する詳細は16ページをご参照ください。

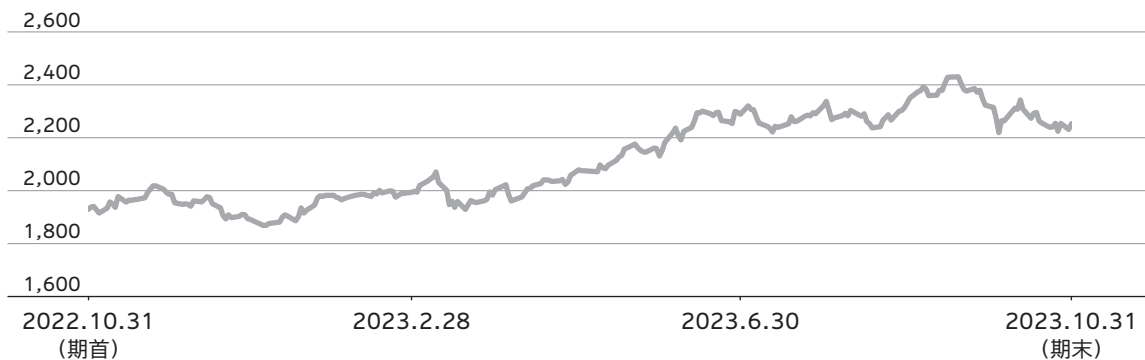
## ● 投資環境

TOPIXは16.8%の上昇となりました。

期初は、金融政策決定会合において10年国債利回りの変動許容幅拡大が決定され、円高が進行したことが下押し圧力となったものの、FRB（米連邦準備理事会）の利上げペース鈍化や中国のゼロコロナ政策解除による景気回復への期待から横ばい圏での推移となりました。その後は、米欧の金融システム不安の高まりから急落する場面もあったものの、政府、中央銀行の迅速な対応に加えて、東証の要請を契機に国内企業の資本効率改善への期待も高まり、海外投資家が大幅買い越しに転じたことから大きく上昇しました。

期末にかけては、FRBによる金融引き締め長期化懸念や中国経済の先行き不透明感が高まった一方、日本企業の堅調な決算や円安の進行などが支えとなり横ばい圏での推移となりました。

TOPIX（東証株価指数）の推移



(出所：Bloomberg)

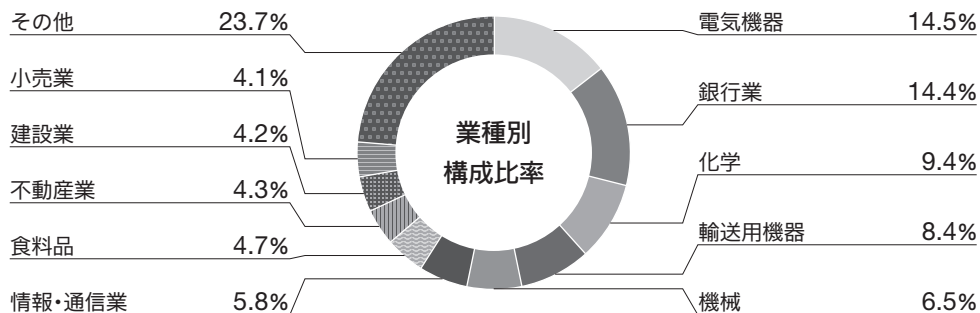
## ● 当該投資信託のポートフォリオ

期を通して損保ジャパン日本株マザーファンドの組入比率を高位に維持しました。

### 損保ジャパン日本株マザーファンド

期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率は、97.6%です。  
期末時点での業種別構成比率はグラフのとおりです。

主な購入（ウェイトアップ）銘柄は、日本電信電話、第一生命ホールディングス、三菱地所など、  
主な売却（ウェイトダウン）銘柄は、武田薬品工業、日本製鉄、三菱商事などです。



注1. 業種別構成比率は、国内株式の評価総額に対する各業種の評価額の比率です。

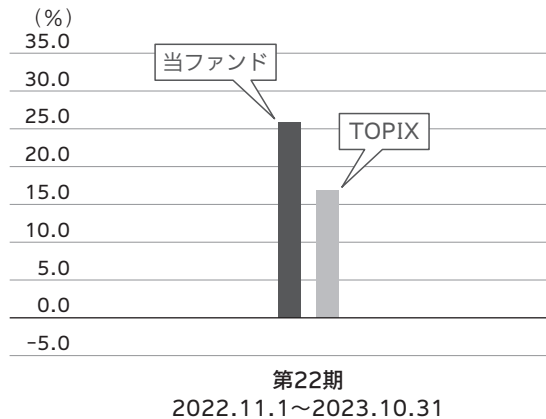
注2. 端数処理の関係上、構成比合計が100%とならない場合があります。



## ● 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドの騰落率は、ベンチマーク（TOPIX）の騰落率（+16.8%）を9.0%上回りました。当ファンドは期を通じて「損保ジャパン日本株マザーファンド」を高位に組み入れておりましたので、以下ではマザーファンドとベンチマークとの差異についてご説明します。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



### 損保ジャパン日本株マザーファンドとベンチマークとの差異

マザーファンドの騰落率は、TOPIXの騰落率（+16.8%）を11.4%上回りました。

要因別では、業種配分効果、個別銘柄選択効果ともにプラス要因となりました。業種配分効果では銀行業、輸送用機器のオーバーウェイト、情報・通信業のアンダーウェイトなどがプラス、海運業、その他金融業のアンダーウェイト、繊維製品のオーバーウェイトなどがマイナス要因となりました。個別銘柄では、三菱UFJフィナンシャル・グループ、三井住友フィナンシャルグループのオーバーウェイト、第一三共のアンダーウェイトなどがプラス要因に、三井物産のアンダーウェイト、麒麟ホールディングス、ファナックのオーバーウェイトなどがマイナス要因となりました。

## ● 分配金

収益分配金については、基準価額の水準および商品設計等を総合的に勘案した結果、次表の通りと致しました。なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて引き続き元本と同一の運用を行います。

分配原資の内訳 (単位：円、1万口当たり・税引前)

項目	第22期 2022.11.1~2023.10.31
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	18,317

注1. 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

注2. 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

注3. 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

中長期的な観点から、複利効果による資産の成長を目指すために分配を抑えるファンドです。

## ● 今後の運用方針



### 損保ジャパン日本株オープン（DC年金）

今後もマザーファンド受益証券の組入水準を高位に維持することで、信託財産の長期的成長を目指して、運用を行います。

### 損保ジャパン日本株マザーファンド

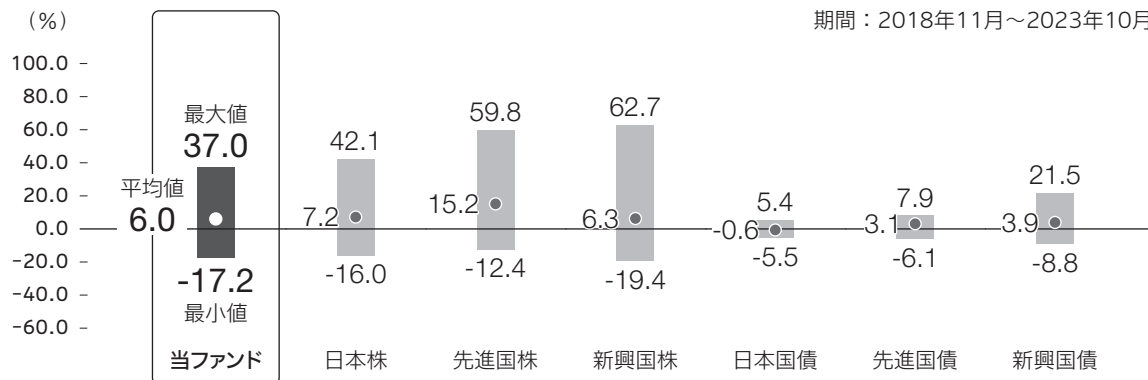
当社の投資哲学に基づいた運用プロセスを堅持し、独自の株式評価モデルで算出した相対的割安度に基づく銘柄選択を基本方針とします。今後も、固有の割安要因に着目した個別銘柄選択を中心とするポートフォリオ構築によって、中長期的に着実な信託財産の成長を目指します。

## ● 当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	無期限
運用方針	長期的に信託財産の着実な成長を目標として運用を行います。
主要投資対象	 損保ジャパン日本株オープン（DC年金） 損保ジャパン日本株マザーファンド受益証券  損保ジャパン日本株マザーファンド わが国の株式
運用方法	<p>① 主として、日本の株式に分散投資することで、リスクを軽減しつつ長期的に信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。</p> <p>② 「東証株価指数（TOPIX）」をベンチマークとし、これを中長期的に上回る運用成果を目指します。</p> <p>③ 本来の投資価値に対して、市場価格が割安となっていると考えられる銘柄に投資します。</p>
分配方針	<p>毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>① 分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子、配当収入及び売買益（評価損益を含みます。）等の全額とします。</p> <p>② 収益分配金額は、委託会社が基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合は分配を行わないことがあります。</p>

## ● 代表的な資産クラスとの騰落率の比較

期間：2018年11月～2023年10月



\* 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

### \* 各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)
日本国債	NOMURA-BPI国債
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

※ 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

- 当ファンドについては、分配金 (税引前) 再投資基準価額の騰落率です。
- 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- 上記の騰落率は直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

指数に関する詳細は16～17ページをご参照ください。▶

# 当該投資信託のデータ

## ● 当該投資信託の組入資産の内容

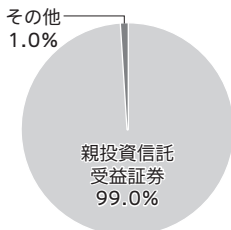
※ 組入銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

### 組入ファンド

	第22期末 2023.10.31
損保ジャパン日本株マザーファンド	99.0%

注. 比率は第22期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

### 資産別配分



### 国別配分



### 通貨別配分



注. 比率は第22期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

## ● 純資産等

項目	第22期末 2023.10.31
純資産総額	948,005,151円
受益権総口数	354,759,062口
1万口当たり基準価額	26,723円

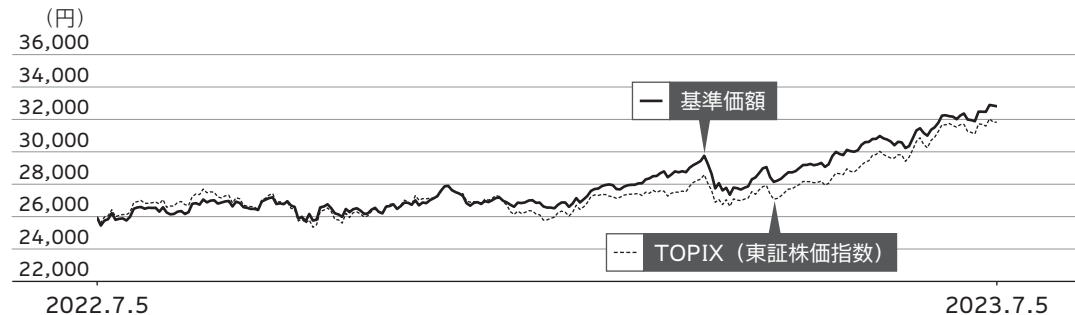
※ 当期中における追加設定元本額は106,392,098円、同解約元本額は78,520,945円です。

## ● 組入上位ファンドの概要

※ 組入ファンドの計算期間の詳細な運用経過等に関する詳細な情報については、運用報告書（全体版）に記載されています。

### 損保ジャパン日本株マザーファンド

#### 基準価額の推移



- ベンチマーク（TOPIX（東証株価指数））の推移は、2022年7月5日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

#### 1万口当たりの費用明細

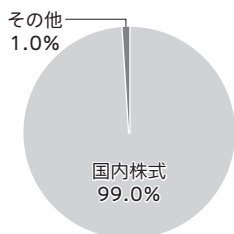
項目	2022.7.6~2023.7.5	
	金額	比率
売買委託手数料	17円	0.059%
(株式)	(17)	(0.059)
その他費用	0	0.001
(その他)	(0)	(0.001)
合計	17	0.060

期中の平均基準価額は28,136円です。

## 組入上位10銘柄

銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	日本円	日本	3.8%
2 トヨタ自動車	輸送用機器	日本円	日本	3.2%
3 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	日本円	日本	3.2%
4 本田技研工業	輸送用機器	日本円	日本	2.6%
5 パナソニック ホールディングス	電気機器	日本円	日本	2.2%
6 ファナック	電気機器	日本円	日本	2.1%
7 村田製作所	電気機器	日本円	日本	2.0%
8 大塚商会	情報・通信業	日本円	日本	1.9%
9 キリンホールディングス	食料品	日本円	日本	1.9%
10 三菱地所	不動産業	日本円	日本	1.8%
組入銘柄数		130銘柄		

## 資産別配分



## 国別配分



## 通貨別配分



注1. 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については前記（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2023年7月5日）現在のものです。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。



## ● 指数に関して

### 当ファンドのベンチマークである「東証株価指数（TOPIX）」について

日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

### 「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

#### ■ 東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

#### ■ MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

#### ■ MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）

MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、米ドルベース）をもとに委託会社が独自に円換算しています。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

#### ■ NOMURA-BPI国債

野村フィデューシャリー・リサーチ & コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ & コンサルティング株式会社に帰属します。

### ■ FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

### ■ JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ベース）

J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

ホームページにて当ファンドの詳細をご案内しております。

損保ジャパン日本株オープン（DC年金）

検索

<https://www.sompo-am.co.jp/fund/0888/price.html>

The screenshot shows the SOMPO Asset Management website. The main content area displays the fund name '損保ジャパン日本株オープン（DC年金）' and its alternative name '(愛称) むぎわら帽子 (DC年金)'. Below this, there is a table of documents:

交	交付目論見書 (2023.07.29)	運交	交付運用報告書 (2022.10.31)
請	請求目論見書 (2023.07.29)	運全	運用報告書 (全体版) (2022.10.31)

The table is highlighted with a red box. The website header includes 'SOMPOアセットマネジメント', 'ENGLISH', and 'SOMPOホールディングス'. The navigation menu includes 'ホーム', 'ファンド情報', 'マーケット・ファンドレポート', '当社の資産運用', and '会社情報'. The breadcrumb trail reads 'HOME > ファンド情報 > 損保ジャパン日本株オープン (DC年金) (愛称) むぎわら帽子 (DC年金)'.

各書類の最新版をご確認いただけます。

交

### 交付目論見書

当ファンド購入に際して投資判断に必要な重要事項をご説明しております。

運交

### 交付運用報告書

当ファンドの運用状況について重要な事項をご説明しております。

請

### 請求目論見書

交付目論見書より詳細な当ファンドの情報をご説明しております。

運全

### 運用報告書（全体版）

交付運用報告書より詳細な運用状況をご説明しております。

本報告書作成時点のものを掲載しております。